

## 2.6.7 研究分野：比較農史学

構成員：	教授	野田 公夫
	准教授	足立 芳宏
	助教	伊藤 淳史
	大学院博士後期課程	9名
	大学院修士課程	3名
	専攻4回生	6名
	博士研究員（PD）	1名

### A. 研究活動（2009.4～2010.3）

#### A-1. 研究概要

##### a) 農業経営史研究

農業経営は農業を構成する基礎的な単位である。すなわち農業経営には種々の類型があるが、それらが集まり農民諸階層が形成され、また地域的に村落・地域・一国の農業が形成され、国際的関係が展開してきている。このような農業構造の基礎的担い手の発達過程のメカニズムを解明しつつある。とくに農業経営発達の基礎過程である技術過程と経済過程及び両者の関連について重点的に分析し、それを手がかりとして農業構造の発達過程を研究している。

##### b) 比較土地改革史研究

戦前期日本農業史研究と現状研究の蓄積を踏まえて、両者の結節点である戦後農地改革および自作農的土地所有の歴史的評価を、主に a) で示した農業経営史的視点から検討している。それとともに、同様の視点から東アジア（韓国・中国）およびヨーロッパ（ドイツ）における第二次世界大戦後の土地改革・土地問題との比較検討をすすめており、比較土地改革論を具体化しつつその中で日本の農地改革の位置づけを明らかにすることを目指している。

##### c) 農業発展過程の比較史的研究

近年の社会科学諸領域に共通する関心は、これまで普遍的な発展方向を示すものと考えられていた西欧モデルを相対化することである。日本を対象にして膨大に蓄積されてきた農業・農村研究を総括し、そこから日本型の農業発展論理を抽出するとともに、アジア諸国・地域との共通項を明らかにしつつ、その個性を世界農業類型として位置付けることをめざしている。かつて農法論視点から世界農業類型が提示された

が、私たちがめざすのは、それに現実の歴史過程を踏まえた新たな類型論の創出である。

#### d) 戦時体制期農業・農村問題の研究

これまで必要性が叫ばれていた割にはすすまなかった、アジア・太平洋戦争期の農業・農村実態の解明に取り組んでいる。「戦時体制下の技術・生産・経営」「統制経済下の農村実態」「満州農業移民の生活と経営」などを具体的なテーマにしつつ、極端な傾斜生産が農業に与えた影響、統制とインフレが農村に与えた影響、「大東亜共栄圏」下の日本農業・農村の位置などを研究している。さらに、おかれた状況に共通性が高いドイツとの比較にも取り組んでいる。

#### e) 近現代ドイツ農村史研究

従来の近現代ドイツ農村史研究は、第一に農村の主要な担い手である土地貴族層と農民層に主に焦点を当てており、その下にいる多様な下層民の実態分析が不十分であり、第二に主に政治・経済構造分析に偏重しており、多様な層から構成される農村社会のトータルな把握という点で不十分であった。そうした反省にたち、外国人季節労働者問題に代表される農村の「エスニック」問題、ドイツ農業とナチズムの問題、戦後の東西ドイツにおける土地改革集団化と農村難民問題の比較研究などについての研究に取り組んでいる。

## A-2. 研究業績（国内・国外含む）

### a) 成果刊行

#### 原著論文（査読付）

・足立芳宏「東ドイツ農業史研究のパラダイム転換 — 「冷戦期」から「ポスト冷戦期」へ」『生物資源経済研究』（京都大学）第15号、2010年3月、41-62頁。

#### 総説

・足立芳宏： 及川順著『ドイツ農業革命の研究(上・下)』（及川博）、『経営史学』第44巻第3号、2009年12月、79-82頁

・伊藤淳史「北崎幸之助著『戦後開拓地と加藤完治—持続可能な農業の源流—』」『農業経済研究』第81巻第3号、2009年12月、204-205頁

・野田公夫 「今をみつめるためにこそ歴史（日本的個性）に思いを馳せたい」『農業と経済』75巻-4号、2009年4月、3頁

・伊藤淳史「松下清雄(渡辺武夫)関連記事—常東農民組合から茨城農民同盟へ—」『立命館言語文化研究』第21巻第1号、2009年8月、193-200頁

#### 報告書等

- ・野田公夫編『農林資源開発の比較史的研究—戦時から戦後へ』、2007年度～2009年度科学研究費補助金基盤研究(B) (代表 野田公夫)、分担執筆：「はじがき」(1頁)、「序章 農林資源問題と総力戦の時代—「資源」概念は農林業をいかに変えたか—」(1-16頁)、「第1章 農林資源問題と科学動員」(17-58頁)
- ・足立芳宏「戦時ドイツの農業・食糧政策と農林資源開発—食糧アウタルキー政策の実態—」『農林資源開発の比較史的研究—戦時から戦後へ』(第IV部第2章)、2007年度～2009年度科学研究費補助金基盤研究(B) (代表 野田公夫)、237-270頁。
- ・伊藤淳史「ウォルフ・ラデジンスキーの日本農業認識—未紹介文献を中心に—」『農林資源開発の比較史的研究—戦時から戦後へ』(第IV部第2章)、2007年度～2009年度科学研究費補助金基盤研究(B) (代表 野田公夫)、191-198頁

#### b) 学会発表

- ・伊藤淳史「ウォルフ・ラデジンスキーの日本農業認識—未紹介文献を中心に—」第9回東アジア農業史国際学術大会個別報告、2009年9月17日、全北大学校(韓国)
- ・伊藤淳史「農業労務者派米事業の成立過程—戦後における那須皓の活動に着目して—」日本農業経済学会特別セッション報告、2010年3月28日、京都大学

### A-3. 国内における学会活動など

#### 所属学会等 (役割)

- ・野田公夫：日本農業史学会 (理事)
- ・足立芳宏：日本農業史学会(理事)

#### 競争的資金等獲得状況

##### ①科学研究費補助金

- ・基盤研究(B)：野田公夫：農林資源開発の比較史的研究—戦時から戦後へ—
- ・若手研究(B)：伊藤淳史：近現代日本農村における人口移動—満州移民・戦後開拓・戦後移民—

### A-4. 国際交流・海外活動

#### 国際会議・研究集会等 (国、役割)

- ・伊藤淳史：「ウォルフ・ラデジンスキーの日本農業認識—未紹介文献を中心に—」第9回東アジア農業史国際学術大会個別報告、2009年9月17日、全北大学校(韓国)

#### 国際共同研究・海外学術調査等

- ・足立芳宏：「ドイツにおける農林資源開発史」に関する海外史料調査 (ドイツ 2010年3月)

## B. 教育活動 (2009. 4～2010. 3)

### B-1. 学内活動

#### a) 開講授業科目 (担当教員)

- ・学部： 農業・農村史 (野田)、生物圏の科学—生命・食料・環境— (野田：分担)、世界の農業・食料・環境Ⅱ (野田：分担)  
社会経済史 (足立)、食料・環境経済基礎社会経済論 (足立：分担)、  
専門外国書講義Ⅰ (足立)  
農業・農村史演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ (野田、足立、伊藤)
- ・大学院： 比較農史学ⅠⅡ (野田)、比較経済史 (足立)、比較農史学専攻演習 (野田、足立、伊藤)

### B-2. 学外における教育活動

#### 学外非常勤講師

- ・野田公夫：神戸大学農学部 (農村社会学)、岡山大学農学部 (農村社会学)、  
愛媛大学農学部 (農業史)

### B-3. 国際的教育活動

#### 留学生・外国人研修員の受入

- ・留学生： 修士課程 1名 (中国)